

相談支援専門員・サービス管理責任者 / 児童発達支援管理責任者

連携評価ツール 活用マニュアル



Ver.1.0

**1 連携評価ツールの背景とねらい** 3

(ア) 連携評価ツール作成の背景 3

(イ) 連携評価ツールのねらい 3

**2 連携評価ツールの説明** 4

(ア) 連携評価シートについて（シートの具体的な内容は記入方法参照） 4

(イ) 各大項目と下位項目について 5~8

**3 連携評価シートの記入方法** 9~12**4 入力した内容の読み取りについて** 13

(ア) グラフについて 14~17

**5 活用方法** 18

活用例 1 個人による連携状況に関する自己評価 18

活用例 2 連携がうまくいっていないと感じた際の状況確認 19

活用例 3 研修における自己評価を通して連携の質を高める 19

活用例 4 使用する大項目を絞った活用 20

**6 参考資料** 21~22

連携評価ツールは以下により構成しています。

①連携評価シート(Excelファイルor用紙)**②活用マニュアル(本冊子)**

※連携評価シートのみで活用することが可能です。

本ツールのねらいについてご理解のうえご使用ください。

・連携状況について「見える化」し、客観的にとらえ、支援の質の向上等を目指しています。

点数そのものだけで良し悪しを決めるものではありません。現状を把握し、今後の取り組みの参考等として活用してください。

・本ツールは様々な形で活用いただけることを想定しています。「5.活用方法」などもご参照ください。

・評価は自己評価の視点が中心になります。解釈の際にはご留意ください。

活用を想定する専門職は以下となります。

・相談支援専門員

（相談支援専門員が活用する場合は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者との連携を想定しています。）

・サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者

（サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者が活用する場合は、相談支援専門員との連携を想定しています。）

※その他の職種の方もご活用いただくことは可能ですが、評価項目がなじまない場合があります。

シートの記入にあたって

・シートの項目は細かな説明をあえてしていません。考えすぎず直観的にご記載ください。

そのほか

・連携評価シートの記入項目は50項目(+7項目)あります。

・本ツールは今後も改定を重ねていく予定です。

1 連携評価ツールの背景とねらい

(ア) 連携評価ツール作成の背景

相談支援などの質の向上から近年、主任相談支援専門員の設置や相談支援従事者研修標準カリキュラム改正が行われ、新たなカリキュラムでは「相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性、サービス等利用計画等と個別支援計画の関係」「サービス等利用計画と個別支援計画等との内容の整合性を確認することの重要性」といった内容が示されました。また、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（以下サビ児管）に関して、「サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業」（株式会社ピュアスピリッツ2017）にて、「他の福祉サービス等との連携を含めて個別支援計画に位置づける」ことや、「他の機関と分担して支援活動をしたときの結果報告」等、連携に関する内容の重要性が認識されています。しかし、障害福祉専門職に関わる連携や支援計画の連動の重要性が述べられているものの、その評価ツールの開発へは至っていませんでした。そこで、相談支援専門員とサビ児管の連携を評価点検するためのツールを開発し提案することを目的としました。今後も継続的な取り組みから、連携評価ツールの改善を目指していきます。

参考：株式会社ピュアスピリッツ（2017）厚生労働省平成28年度障害者総合福祉推進事業サービス管理責任者等の業務実態の把握と質の確保に関する調査研究事業 報告書

(イ) 連携評価ツールのねらい

- 1、連携に関する評価を見える化することで、できている・できていない点や、得意・苦手な点等を客観的に確認することができ、連携に関する取り組みの改善につながることを期待しています。
- 2、相談支援専門員とサビ児管の連携について見える化することで、連携を通じた質の高いサービス提供について、具体的な内容の意識化につながることを期待しています。
- 3、近年の福祉課題として、複雑化・複合化した課題が増加しているといわれている中で、多様な支援対象者に対しても多職種・多機関チームとして連携・協働が求められており、ツールの活用を通じた支援体制整備を期待しています。
- 4、連携をするための環境について評価していくことで、ICT等テクノロジーの活用を促進し、人材不足や業務負担の軽減、効率的な業務対応に寄与することを期待しています。

2 連携評価ツールの説明

連携の状況について「見える化」し、客観的に連携の状況についてとらえることを目的としています。

なお、自己評価の視点が基本となります。

この連携評価ツールは、①「連携評価シート」と、②「活用マニュアル」で構成されています。「連携評価シート」に入力するだけで簡単に活用可能ですが、「活用マニュアル（本誌）」をご覧くださいことで、よりスムーズに活用することができます。

(ア) 連携評価シートについて（シートの具体的な内容は記入方法参照）

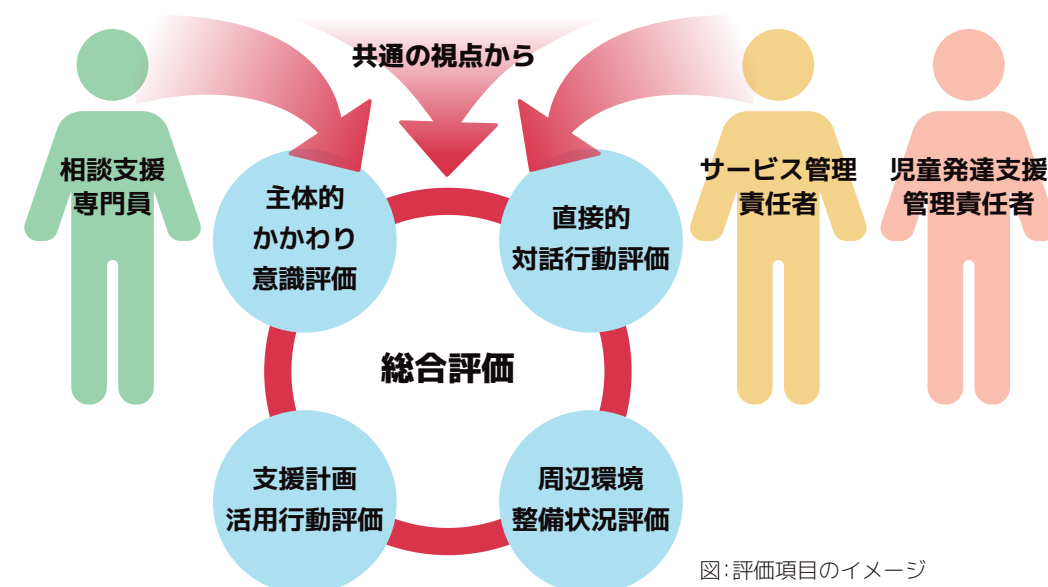
「連携評価シート」の項目は、相談支援専門員・サビ児管双方の視点から共通した評価が進められるように設定しました。

同じ視点から評価できることで、ツールを通して連携に関する共通理解となることを想定しています。

以下の4つの大項目と、それらを構成する下位項目があります。

- ① 直接的対話行動評価 （9項目）
- ② 支援計画活用行動評価 （6項目）
- ③ 主体的かかわり意識評価（25項目）
- ④ 周辺環境整備状況評価 （10項目）

また、4つの項目についてそれぞれの平均値を算出したものを「総合」評価としました。



(イ) 各大項目と下位項目について

① 直接的対話行動評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、直接的なやりとり(かかわり)を中心として、対話(双方向性)につながる具体的な行動の実施状況に関して評価する項目です。会議場面を中心にどのような行動をとっているのかを見える化します。

業務としても支援の状況を確認するために会議(オンライン会議含む)等が実施されることもあり、連携を具体的に進めるにあたって重要な要素の一つとなります。

下位項目については以下9項目の内容となります。

1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的に行っている
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している

② 支援計画活用行動評価

相談支援専門員やサビ児管が担っている重要な役割の一つとして、「支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)」の作成、また、計画を共有・連動させて具体的な支援につなげていくことが挙げられます。支援計画書を中心に、その内容に対して情報を共有し、確認をしているかといった行動状況を評価する項目です。

作成された支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)等の共有を中心に見える化します。

下位項目については以下6項目の内容となります。

10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している

③ 主体的かかわり意識評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているととらえているかといった視点に関して評価する項目です。

いわゆる「顔が見える関係」状況やそれを構築していくためのかかわりが含まれます。

この項目を通して、連携を進めるための基盤となる「かかわり」について見える化します。

下位項目については以下25項目の内容となります。

16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている
19	担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる
24	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している

④ 周辺環境整備状況評価

実施者が記入時に想定した連携対象に対して、より効率的・効果的に連携を行うためには、それを可能とする環境が影響します。実施者個人内にある要因のみでなく、連携を促進する(連携のしやすさ、質を高める)環境整備が整っているかに関して評価する項目です。

近年では、ICTを活用した会議や面談なども広がっており、そうした環境の整備、また、アドバイスを受けたリ、連携に関する知識・技術を高める機会(研修やスーパービジョンなど)も重要となります。加えて、緊急時や必要時の対応についても整えられているかといった視点から見える化します。

下位項目については以下10項目の内容となります。

41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある
46	所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)体制が整っていると感じる
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている
49	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している

補助項目

大項目のまとまりとして分類されなかった項目になります。

必要に応じて実施することで、評価を補足します。

下位項目については以下7項目の内容となります。

51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している
52	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の連動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している
54	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている
57	利用者の支援につながりそうな地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している



3 連携評価シートの記入方法

活用する専門職の想定は以下となります。

相談支援専門員

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者

※その他の方もご活用いただくことは可能です。

本シートは、

①相談支援専門員は、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者を

②サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者は、相談支援専門員を

想定して記入することが基本となります。

●連携評価シートは、実施者(記入者)が、自身の現状について主観的に評価(自己評価)をしてくことが基本となります。

●シートはMicrosoft Excelのファイル形式となっています。
パソコンを用いて必要項目を記入することで、自動でグラフが表示されます。
(印刷して手書きでも使用が可能です)

手順 (Excel の場合)

1. 「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。

また、「(連携の対象)」を具体化して想定する場合は、こちらも記入してください。

※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携相手となります。一人(例:A相談支援専門員 個人等)を想定する場合もあれば、複数(例:1年間でやり取りしたサビ管等)を想定する場合があります。

2. シート右上に実施日を記入します。(3回分まで同じシートで記入できます。Excelの場合)

3. 項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字(半角)を記入(または選択)していきます。
なお、実施日と同じ回の欄に記入してください。

数字は「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」となります。

4. 必要な場合は、補助項目についても数字を記入してください。

5. 入力された数字から、シートの下部に大項目全体に関するグラフ(平均値)、
下位項目別に関するグラフ(入力値)が表示されます。

6. 必要な場合は印刷出力も可能です。

連携評価シート

No1～No50の点数欄(当てはまる実施日)に数字「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」を得点欄に記入して下さい。(必要に応じて補助項目も記載してください) ※サビ管等＝サービス管理責任者、及び児童発達支援管理責任者

所属 職種 相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他() (当てはまるものに○)
実施者名
連携の対象)

実施日 (年月日)
1回目 2022年12月3日
2回目 2023年2月2日
3回目

点数「1(全く当てはまらない)」
～「6(十分に当てはまる)」

No	項目	1回目	2回目	3回目	項目番号
1	相談支援専門員が利用者の支援を検討する会議	2	3	4	①1
2	相談支援専門員が利用者の支援を検討する会議	2	3	4	①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議	2	4	5	①3
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のとき	2	4	5	①4
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発	2	4	5	①5
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席	2	3	5	①6
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内	2	3	5	①7
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について	2	3	4	①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している	2	3	4	①9
10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について利用者に関連する他事業所のものをすべてを保持している	3	2	4	②1
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている	3	2	4	②2
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している	3	2	4	②3
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している	3	2	4	②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している	3	2	4	②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している	3	2	4	②6
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている	4	2	5	③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている	4	3	5	③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている	2	3	5	③3
19	担当利用者のことにかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている	1	3	5	③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる	2	3	5	③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている	2	4	5	③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている	2	4	5	③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる	3	4	5	③8
24	利用者のことで初めてかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようにしている	3	5	5	③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる	3	2	5	③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている	2	2	5	③11
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている	3	2	5	③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している	2	3	5	③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている	1	2	5	③14

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

結果グラフ

表に数値を入力すると青枠にグラフ等で概要が表示。また、必要な人は「参考用」シートも確認。

	1回目	2回目	3回目	平均
①直接的対話行動	2.00	3.33	4.56	平均
②支援計画活用行動	3.00	2.00	4.00	平均
③主体的かわり意識	2.32	3.44	5.00	平均
④周辺環境整備状況	2.50	3.70	4.00	平均

	1回目	2回目	3回目
合計1	18	30	41
平均	2.00	3.33	4.56

	1回目	2回目	3回目
合計2	18	12	24
平均	3.00	2.00	4.00

	1回目	2回目	3回目
合計3	58	86	125
平均	2.32	3.44	5.00

	1回目	2回目	3回目
合計4	25	37	40
平均	2.50	3.70	4.00

シートに数値を入力することで、グラフが作成されます。

数字は項目別番号に対応。シートの番号と照らし合わせて確認。

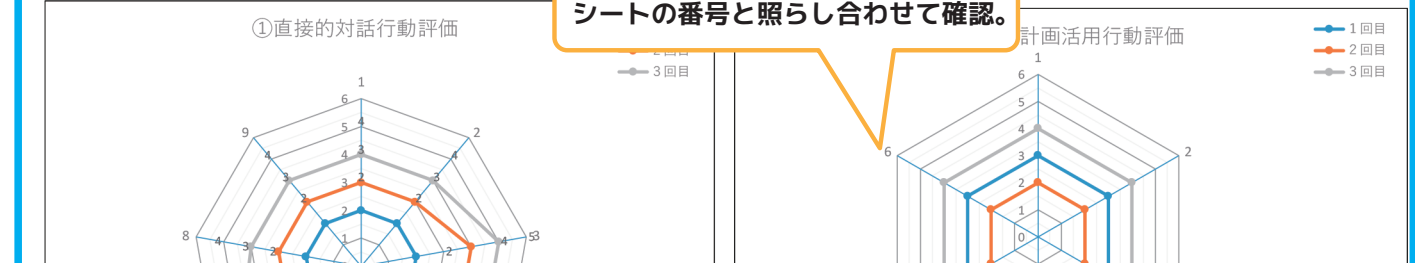


図: 連携評価シート例(赤い囲みについて記入していきます)

手順（手書きの場合）

1. 「評価シート」の上部に実施者の「所属」「職種」「実施者名」を記入します。また、「（連携の対象）」を具体化して想定する場合は、こちらにも記入してください。
- ※連携の対象とは、実施者が記入に際して想定する具体的な連携対象となります。一人（例：A相談支援専門員 個人等）を想定する場合もあれば、複数（例：1年間でやり取りしたサビ管等）を想定する場合があります。
2. シート右上に実施日を記入します。
3. 項目の内容について、シート右の記入欄へ1～6の間で数字を選択（○つけ）していきます。
- 数字は「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」となります。

連携評価シート

Nb1～Nb50の点数欄の数字「1（全く当てはまらない）」～「6（十分に当てはまる）」に○を記入して下さい。（必要な方は補助項目も記載してください。）※サビ児管＝サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者

所属
職種
実施者名

相談支援専門員
サービス管理責任者
児童発達支援管理責任者
その他（
）（当てはまるものに○）

実施日（年月日）

Nb	項目	1	2	3	4	5	6	項目別番号
1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）に参加している							①1
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）を主催している							①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の記録を共有している							①3
4	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている							①4
5	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での発言を積極的に行っている							①5
6	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）の欠席時は、記録などの情報を共有している							①6
7	利用者の支援を検討する会議（サービス担当者会議など）での内容を支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）に反映させている							①7
8	支援計画（サービス等利用計画や個別支援計画）の内容について意見交換をしている							①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している							①9
10	支援計画書（サービス等利用計画書・個別支援計画書）について利用者に関連する他事業所のものをすべてを保持している							②1
11	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている							②2
12	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している							②3
13	支援計画（サービス等利用計画・個別支援計画）の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している							②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している							②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している							②6
16	必要な情報はリアルタイムに（素早く）相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている							③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている							③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている							③3
19	担当利用者のことでかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている							③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる							③5

図：手書き入力用シート

4. 必要な場合は、補助項目についても数字を選択してください。

5. 入力された数字から、シートの下部に総合評価に関するグラフ（平均値）、大項目別に関するグラフ（下位項目の入力値）を記入します。

最初は、各下位項目についてグラフを記載して下さい。項目別番号の①～④の数字は大項目と対応します。

さらにその後ろの数字は、大項目内のそれぞれの番号と対応します。

11

Cooperation evaluation tool utilization manual

結果グラフ

総合

②直接的対話行動

④支援計画活用行動

①主体的かわり意識

③周辺環境整備状況

⑤支援計画活用行動

①主体的かわり意識

総合平均 合計点

②直接的対話行動	/54
④支援計画活用行動	/36
①主体的かわり意識	/150
③周辺環境整備状況	/60

平均値を計算して
グラフへ記入

①直接的対話行動評価

②支援計画活用行動評価

③主体的かわり意識評価

④周辺環境整備状況評価

⑤補助項目

項目別の数値から記入がスムーズ

下位項目別の記入が終わったら全体の概要についても記載します。

数値は、大項目ごとの平均値を計算し、記入します。

① 直接的対話行動 すべての数字を足して 9 で割ります。

② 支援計画活用行動 すべての数字を足して 6 で割ります。

③ 主体的かわり意識 すべての数字を足して25で割ります。

④ 周辺環境整備状況 すべての数字を足して10で割ります。

※補助項目は平均値を出せません

12

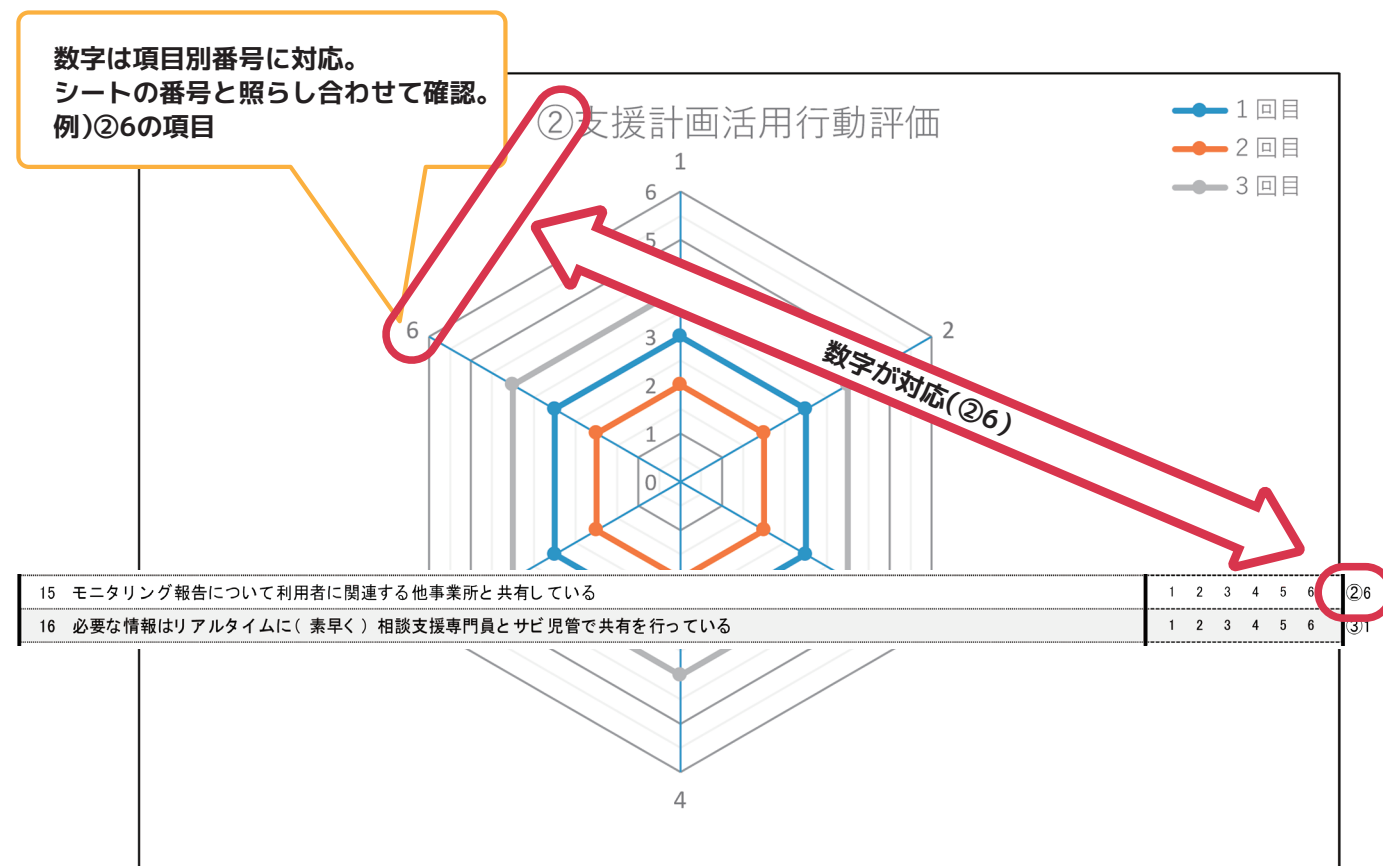
Cooperation evaluation tool utilization manual

4 入力した内容の読み取りについて

連携評価シートは、主に自己評価として個人の連携状況を評価し、見える化することを目的としています。
入力シートは3回分の入力を可能としています。

1年目、2年目、3年目と経過を追って縦断的に活用することも可能です。(Excelの場合)

- 数字が大きいほど実施できている項目、意識できている項目ととらえることができます。
- 大項目別のグラフには下位項目の番号が記載されています。それぞれ「項目別番号と対応」しているので、項目を照合して確認します。
- グラフの中で他より低くなっている項目があった場合は、苦手であったり、うまくいってなかったりする項目かもしれません。今後意識することで改善や向上につながることも考えられます。



補足

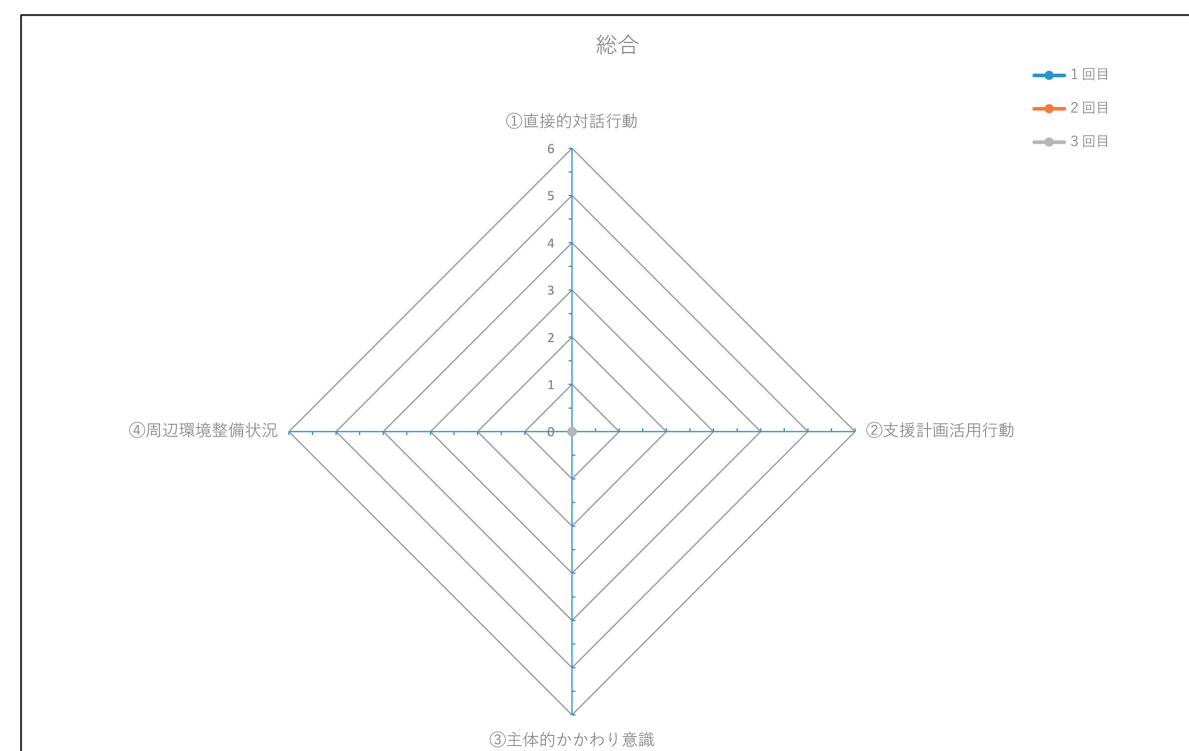
「参考用」シートには、全国調査における平均値が記載されています。見える化された自身の数値と比べることが可能です。ただし、本数値はあくまでも参考値であり、平均値より高いから十分、低いから不十分とは一概に言えませんので注意して活用してください。

(ア) グラフについて

総合評価

4つの大項目からの全体像について視覚的に確認します。大項目別の平均値が記載されます。

- ① 直接的対話行動評価 (9項目)
- ② 支援計画活用行動評価 (6項目)
- ③ 主体的かかわり意識評価 (25項目)
- ④ 周辺環境整備状況評価 (10項目)



① 直接的対話行動評価(9項目)

9項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの①の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は1～9です)

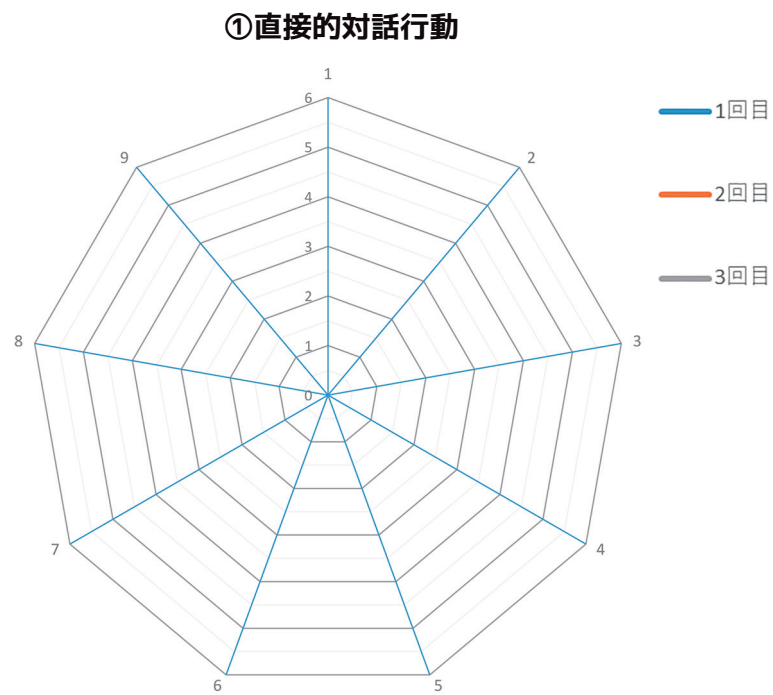


図:直接的対話行動グラフ例

③ 主体的かかわり意識評価(25項目)

25項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの③の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は16～40です)

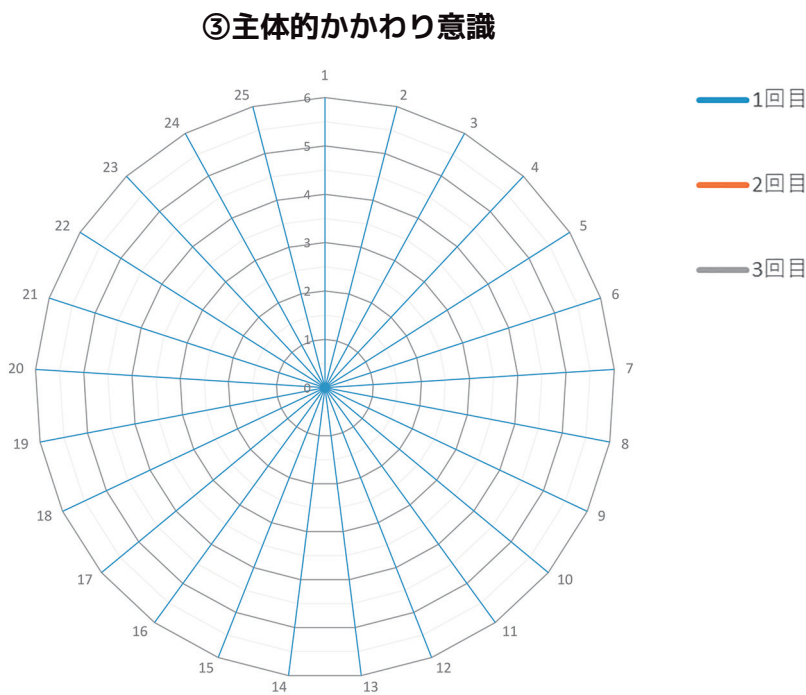


図:主体的かかわり意識グラフ例

② 支援計画活用行動評価(6項目)

6項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの②の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は10～15です)

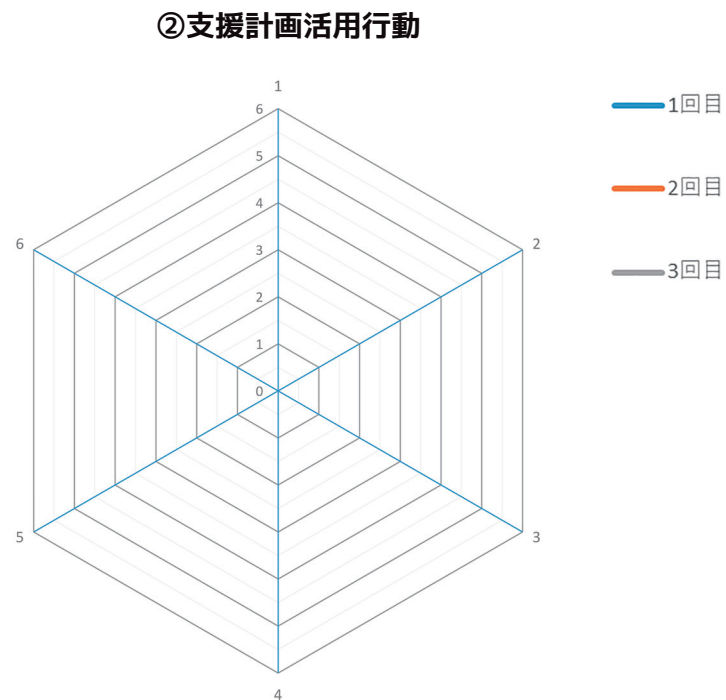


図:支援計画活用行動グラフ例

④ 周辺環境整備状況評価(10項目)

10項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの④の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は45～50です)

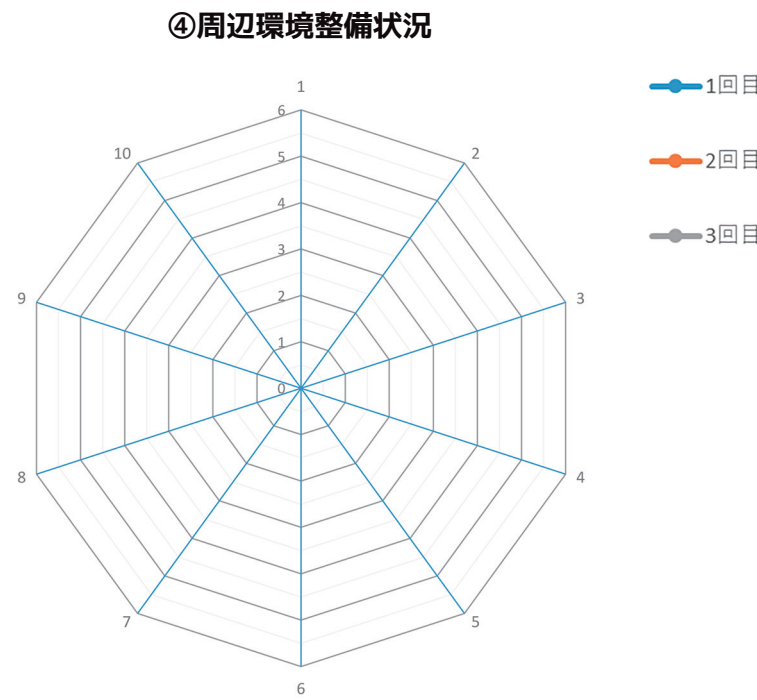


図:周辺環境整備状況グラフ例

補助項目(7項目)

7項目のグラフとなります。グラフの番号はシートの⑤の「項目別番号」と対応します。
項目の内容確認は番号と照合して行ってください。(設問番号と照合する場合は51~57です)

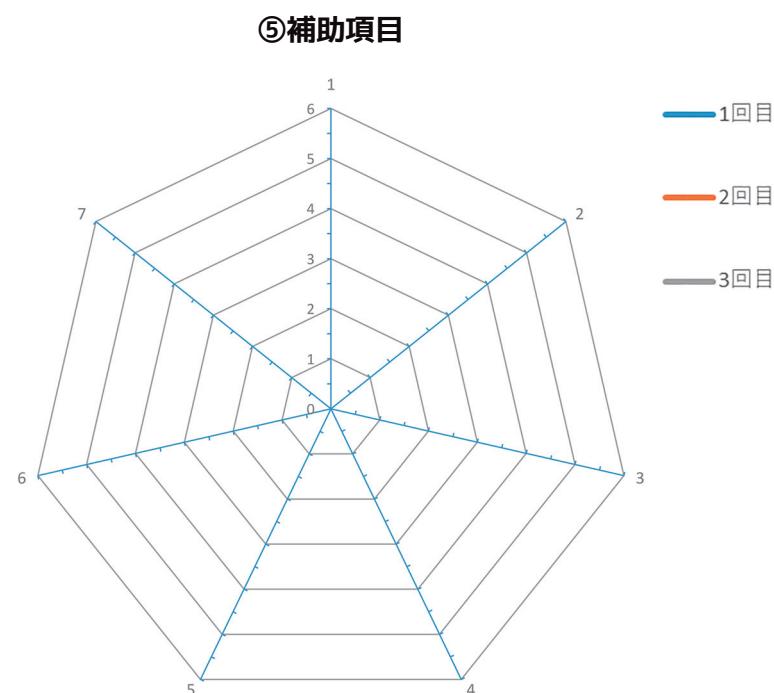


図:補助項目グラフ例

5 活用方法

連携評価シートの評価結果は、実施者のニーズに合わせて、様々な活用が可能です。

使用する方の目的に合わせて活用してください。

評価結果として数値が算出されます。数値が小さい場合、その項目を意識して行動等につなげることで、連携の向上につながるかもしれません。(ただし、取り組みの中で実践する必要がない・機会がない項目などは数値が低くなっている場合があります)

主に個人が活用することが想定されます。活用方法について下記に例示します。

活用例1 個人による連携状況に関する自己評価

活用場面

相談支援専門員(サビ児管)が一年間の業務の総括を行おうと考えた。利用者に関する支援計画(サービス等利用計画または個別支援計画)の作成を多数行ってきたが、担当ケースの利用先のサービス管理責任者(または相談支援専門員)とどのくらい連携を行っていたのか振り返り自己評価するために、シートを活用した。

※担当ケース数が多い場合は、印象が残ったケースを中心の記載となってしまうことも想定されます。

考えられる対応状況として最も多かったパターンのケースを想定して記入するなど、対象像を確認しましょう。

実施者

相談支援専門員(サビ児管)

想定する連携対象

担当利用者(自身が計画を作成した利用者)の全てのサビ児管(相談支援専門員)(複数)

活用効果例イメージ

実施した結果、実践の中であまり意識できていなかった項目が明らかとなり、今後の取り組みの中での目標設定につなげて取り組むことができた。


活用例2 連携がうまくいっていないと感じた際の状況確認

活用場面

初めて関わる相談支援専門員より連絡があり、新規利用者の対応を進めているが、相談支援専門員との連携がうまくいっていないと感じた。具体的に連携の課題となっている点が認識できないため、評価シートを活用して課題となっていそうな点を確認することにした。

- 実施者
サビ児管
- 想定する連携対象
相談支援専門員(1名)

活用効果例イメージ

 連絡を取る時間帯について十分確認できていなかった。また、支援計画書の内容について相互のやり取りが充分ではなく、共有ができていなかったことがみえてきた。お互いの連絡がつきやすい時間帯を確認し、また、支援計画の共有についても提案したところ、相互に確認することができた。支援の方向性が共有され、よりよい支援展開につながった。


活用例3 研修における自己評価を通して連携の質を高める

活用場面

相談支援専門員としてのスキルアップ研修が行われた。研修の中で相談支援専門員とサビ児管が連携することの重要性を改めて確認した。また、研修の中でこれまでに経験した困難事例について取り上げて、自身の連携に関する取り組み状況を振り返るために連携評価シートの活用が行われた。

- 実施者
相談支援専門員
- 想定する連携対象
困難事例ケースで関わったサビ児管(2名)

活用効果例イメージ

 ある程度は連携の密な取り組みができていると考えていたが、シートを用いて改めて振り返ることで、この事例で大切にしていた点が認識できた。特に記録に関して積極的の共有し、会議での対応を密に実施していた。今後の実践でも意識できると良い点が確認できた。


活用例4 使用する大項目を絞った活用

活用場面

長らく関わっていた利用者の個別支援計画を作成しているX事業所の担当児童発達支援管理責任者が1年前に変更となった。これまで業務上の連絡やモニタリングの際に情報のやり取りは行うものの、直接関わる機会は多くない状況であった。X事業所はこれまでも定期的に新規利用者の相談をしていた先であり、今後も様々な利用者について相談できればと考えている。そこで、現在どれくらい関係性構築に向けた自らのかかわり方(行動)を意識しているか、どのような関係が構築できているととらえているかといった視点を確認するため、「主体的かかわり意識」に関する評価項目(25項目)に絞って評価を実施した。

- 実施者
相談支援専門員
- 想定する連携対象
児童発達支援管理責任者(1名)

活用効果例イメージ

 業務上の必要と思われるかかわりはしているものの、相手の性格や価値観については理解できるようなかかわりをしていなかったことがみえてきた。より信頼感をもって一緒に仕事ができるようになるため、積極的に情報交換・連絡を行った結果、困難なケースなども含めて安心して相談・連携できる関係を築くことができた。

その他の活用例

- ・なかなか相談できる人がいないとき、連携に関するセルフスーパービジョンの1つとして
- ・地域の専門職メンバーで共有し、地域の連携の現状について確認
- ・他者との共有が可能であれば、お互いの認識を確認 など

連携評価シート

No1～No50の点数欄(当てはまる実施日)に数字「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」を得点欄に記入して下さい。(必要な方は補助項目も記載してください。)

※サビ児管＝サービス管理責任者・及び児童発達支援管理責任者

実施日 (年月日)

1回目
2回目
3回目

点数「1(全く当てはまらない)」～「6(十分に当てはまる)」

所属職種
実施者名
(連携の対象)

相談支援専門員 サービス管理責任者 児童発達支援管理責任者 その他() (当てはまるものに○)

No	項目	1回目	2回目	3回目	項目別番号
1	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)に参加している				①1
2	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)を主催している				①2
3	相談支援専門員及びサビ児管がいる利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の記録を共有している				①3
4	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)のときに、必要としていることを考えて情報提供をしている				①4
5	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での発言を積極的に行っている				①5
6	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)の欠席時は、記録などの情報を共有している				①6
7	利用者の支援を検討する会議(サービス担当者会議など)での内容を支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)に反映させている				①7
8	支援計画(サービス等利用計画や個別支援計画)の内容について意見交換をしている				①8
9	サービス等利用計画の内容について、相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している				①9
10	支援計画書(サービス等利用計画書・個別支援計画書)について利用者に関連する他事業所のものすべてを保持している				②1
11	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の目標の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている				②2
12	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、相談支援専門員とサビ児管で変更内容を共有している				②3
13	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の見直しの際に、利用者に関連する他事業所も含めて変更内容を共有している				②4
14	利用者のモニタリング報告について相談支援専門員とサビ児管で共有している				②5
15	モニタリング報告について利用者に関連する他事業所と共有している				②6
16	必要な情報はリアルタイムに(素早く)相談支援専門員とサビ児管で共有を行っている				③1
17	定期的な会議以外で、気づいた点の情報共有を相談支援専門員とサビ児管で行っている				③2
18	決められた会議の開催がない時期も相談支援専門員とサビ児管で定期的に連絡を取っている				③3
19	担当利用者のことでかかわる相談支援専門員またはサビ児管の顔と名前がわかっている				③4
20	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管に躊躇せずに連絡ができる				③5
21	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ連絡のとりやすい時間・方法がわかっている				③6
22	担当利用者のことで相談支援専門員またはサビ児管へ気後れせずに何でもきける関係を築けている				③7
23	担当利用者以外のことについて、相談支援専門員やサビ児管へ相談できる				③8
24	利用者のことで初めてかかわる相談支援専門員またはサビ児管とは、集中的に連絡を取るようになっている				③9
25	利用者の支援について修正すべき点に気づいた際、相談支援専門員やサビ児管へ意見を伝えられる				③10
26	支援のための役割分担が相談支援専門員とサビ児管の間で明確にされている				③11
27	自身が提供しているサービス(支援)の具体的な内容を相談支援専門員やサビ児管に伝えている				③12
28	相談支援専門員またはサビ児管が提供しているサービス(支援)の具体的な内容について情報収集している				③13
29	利用者を中心とした支援のためのやりとりを行っている				③14
30	関わる相談支援専門員またはサビ児管の性格がわかっている				③15
31	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援に対する価値観がわかっている				③16
32	関わる相談支援専門員またはサビ児管の支援におけるつきあい方がわかっている				③17
33	関わる相談支援専門員またはサビ児管から、互いを理解し、受け入れられていると感じている				③18
34	相談支援専門員またはサビ児管との情報共有のために、実際の行動を起こしている				③19
35	相談支援専門員またはサビ児管からの連絡への返答はできるだけ早く行っている				③20
36	相談支援専門員またはサビ児管に対して、ねぎらいの言葉や肯定的評価を伝えている				③21
37	相談支援専門員またはサビ児管とは、信頼感をもって一緒に仕事ができている				③22
38	相談支援専門員またはサビ児管に知りたいことを気軽に聞ける				③23
39	相談支援専門員またはサビ児管の所属している事業所の理念や事情がわかっている				③24
40	相談支援専門員またはサビ児管が関わる個別の課題について、必要に応じて地域の課題として広く共有している				③25
41	所属組織では、オンライン会議が可能な通信環境が十分に整備されていると感じる				④1
42	オンライン会議の案内があった際は、会議に参加できている				④2
43	メールやICTを活用した情報交換が求められたときは十分に対応できている				④3
44	所属組織内で連携に関する研修に参加する機会がある				④4
45	所属組織外で連携につながる研修に参加する機会がある				④5
46	所属組織の中に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)体制が整っていると感じる				④6
47	所属組織がある地域に、スーパービジョン(支援を検討するためのアドバイスなど)の環境が整っていると感じる				④7
48	利用者の状況が急に変わったときの対応や連絡先を決めている				④8
49	必要時にすぐにアクセスできるよう利用者の記録情報がわかりやすく整理されている				④9
50	利用者を取り巻く地域資源への連絡先を把握している				④10

※補助項目

No	項目	1回目	2回目	3回目	
51	個別支援計画の内容について相談支援専門員とサビ児管で相互に確認している				⑤1
52	支援計画(サービス等利用計画・個別支援計画)の内容の運動について相談支援専門員とサビ児管は相互の合意を得ている				⑤2
53	面談等で取得した利用者の情報を、相談支援専門員またはサビ児管に提供している				⑤3
54	利用者の支援にかかわる各種会議記録について、必要な際に相談支援専門員またはサビ児管へ提供している				⑤4
55	相談支援専門員とサビ児管が必要に応じて情報交換が出来るように記録を整理している				⑤5
56	支援をするために、十分な時間を使い相談支援専門員とサビ児管で情報交換を行っている				⑤6
57	利用者の支援につながるような地域に関する情報を相談支援専門員とサビ児管で交換している				⑤7

記入が終了したら、「参考用」シートも確認してください。

21

Cooperation evaluation tool utilization manual

結果グラフ

総合

①直接的対話行動

②支援計画活用行動

③主体的かかわり意識

④周辺環境整備状況

1回目

2回目

3回目

合計1
平均

1回目
2回目
3回目

合計2
平均

1回目
2回目
3回目

合計3
平均

1回目
2回目
3回目

合計4
平均

①直接的対話行動評価

②支援計画活用行動評価

③主体的かかわり意識評価

④周辺環境整備状況評価

⑤補助項目

22

Cooperation evaluation tool utilization manual

本連携評価ツールに関するご意見・お問い合わせは、フォームよりお願いします。



フォーム

<https://forms.gle/qX8xoQmyiK4Saw6Y9>



相談支援専門員・サービス管理責任者/児童発達支援管理責任者
連携評価ツール 活用マニュアル Ver.1.0

2023年3月発行

相談支援専門員とサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者
の連携に関する評価ツールの開発のための研究チーム

研究代表者 近藤尚也(北海道医療大学看護福祉学部)

本連携評価ツール(マニュアル・連携評価シート)は、令和4年度において、厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)を受け実施した研究の成果として作成しました。